

牛久市社会教育委員会議事概要		日時	令和8年1月23日(金曜日)
件名	令和7年度第3回社会教育委員会議	場所 時間	牛久市中央生涯学習センター 9:30~12:00
作成年月日	令和8年2月20日(金曜日)	作成者	生涯学習課: 木村 翠
出席者	(出席委員) 議長 竹上 謙一、五十嵐 登紀子、高野 しのぶ、蓑毛 尚恵、種子田 孝子、宮本 芳子、 唯根 勉、高橋 伸洋、佐々江 健治 (事務局) 生涯学習課長 糸賀珠絵、主任 横瀬幸子、主事 木村翠 (傍聴者) なし (順不同・敬称略)		
議事内容	1) 令和7年度社会教育委員会議のテーマ考察について		
会 議 内 容 等			
1. 開会 2. 挨拶 3. 議 事 1) 令和7年度社会教育委員会議のテーマ考察について 上記における各委員より、各自が置かれた現状や問題について共有を行った。 2) その他 4. 閉 会			
【質疑等】			
令和7年度社会教育委員会議のテーマ考察について			
議 長	前回の会議では、様々な意見が出ました。今回、青少年と各委員がかかわる分野について意見を伺いたい。今、自分は国の補助事業の採択を受け実証事業を実施している。実証事業に携わる中で、「行政を動かすのは民意」であると強く感じている。		
委 員	地域クラブ移行について自身がメンバーの一人なので自分は事情を把握しているが、文化協会で日常的に活動している人たちは、2年間単位で役員をしていることもあり、地域移行という話題を喫緊の自分事としては考えていないと思う。「活動をあと5年続けられるか・文化協会を今後どうしていくか」といった話題であれば一生懸命自分事として考えるとおもう。どの団体も、その活動のすばらしさを世の中に知らせたいと純粋に思っており、それ故に自身の組織の存続に精一杯。 自分としては地域移行について真剣に考えているが、その話題をそのままそっくり文化協会の人たちにぶつけることはできないと感じている。		
委 員	難しい問題だと思う。運動系は傍目にもわかりやすいが、文化部活動で表に出て大勢の前で発表する機会があるのは合唱やせいぜい吹奏楽で、「地域移行についてどうしよう」ということを考えるに至るまでが一山二山という印象。目立たなくともその活動が素晴らしいということをどう伝えていくのか考えなくてはならないと思った。例えば文化祭でアピールするといったことを考えたとき、地味な分野についてはどのようにすればよいのか悩ましい。		
委 員	小学校でサッカーをやっている、中学校の部活動だと活動がほとんどなくなってしまうのでクラブチームに入ったりする。昔は、クラブチームはプロ志望の本格的にやりたい子が入るイメージだったが、今は、活動目的如何にかかわらず好きなサッカーを毎日するにはクラブチームに行くしかないというのが子供たちの現状だと感じる。体験会の実施のお知らせなども保護者として受け取っているが、試合や大会が		

	<p>重なってしまい行けなかったりしてもどかしいところ。以前参観日に吹奏楽・和太鼓の発表があったが、練習時間が無いせいか、数年前に聞いたものからだいぶ内容が変わってしまっていてショックを受けたりもした。本人たちも練習が十分でないと感じていると思うし、保護者としても気の毒に感じた。小学校では土曜カッパ塾のようなものもあったが、小学校のころは、求めればいろんな活動をできる場があったが、中学校に上がると習い事とするしかない。なので、土曜・日曜にどうにかして、地域の大人と触れ合って文化系のものできたら一番よいのではと思う。</p>
委員	<p>部活動について、運動系は指導者を募集する形ができやすいが、文科系がその点後手に回っているのは事実だと思う。教職員の働き方改革も相まって、先生が時間をとるのは難しいので、他の方を募集している現状。文化系に関しては、どの学校でどれほど、どんなニーズがあるのかの把握もまだだと思う。アンケートもとったが、スポーツ中心だった。おくの義務教育学校に関して言えば、文化系は吹奏楽しかない。また、土日練習しているのはたまたま先生が熱心で率先して行っているから。文化部の子は練習日数が減っているが、充実しているように見える。他学校の状況は分からないが。</p> <p>保護者の前ではすましているが、土曜カッパ塾ではお茶目だったり悪童だったりする。素の顔というのは、地域にいるときに出るものなのかと思うと、子供に関わってくれる人たちのありがたみを感じる。子供たちは地域の中で素を出すことで精神のバランスをとったり楽しんだりしているのだと思う。部活動の地域移行は教員の働き方改革を発端とする流れだが、究極的には子供の幸せになること。子供の成長にとっては先生・親ではない人との関わりが大きなプラスになるのではないかと思う。文化協会の団体さんも運営だけで大変かとは思いますが、先生や指導者を務めてくれる人がいらっしやれば、ぜひ名乗りを上げて登録してもらえたらうれしいと思う。</p>
議長	<p>調べてみると、以外にも牛久は小学生対応のいろんな活動をしている。他市町村と比較しても受け皿づくりが充実している。逆に中学生はすごく少ない。自分はたまたまこうした委員を務める立場となったので調べたりするが、普通の大人は関わりがなければこの事実を知らない。小学生と中学生でその差を目の当たりにするのは子供たちだと思う。</p>
委員	<p>青少年相談員も行事に追われている。なおかつ、自身が就学時の親あるいは祖父母という意味では現役世代ではないので、あまり実態を把握できていない</p>
委員	<p>小学校を卒業したらスポーツ少年団をスパッとやめてしまうことが多い。特に進学でやめるというのはよくある。自分は少林寺拳法を行っているが、やめてしまった子はその後どういう部活動に行っているのかなと思う。武道系だと剣道・柔道などに進む子が多いと思うが、サッカーや野球等だとその後の動向は把握していない。活動自体を単純にやめてしまう子もいる。スポーツ活動に求めるものも、勝ち負けがはっきりしているものに進みたいという元気な子もいれば、鍛えたいという親の意向でやっている子もいる。文化系に行くのか、他のスポーツに行くのか、そういった中学部活動の基盤というのは自分も把握していない。</p>
委員	<p>特に柔道について見てみると、小学生や幼児は親子で入会するひとが多い傾向がある。昔は子供だけの入会が多かったが、子供たちを見ていると保護者がいると安心するようだ。指導者不足が一番問題。一定の技術がないとケガを負うかもしれない。そこで保護者にも昇段試験を積極的に受けるよう勧めており、黒帯持ちの人が出てきている。卒業生と会う機会があったが、柔道が良い思い出になっているのだろうと感じた。指導の仕方もいろいろあり、目標をどこに構えるかというのが大きな課題だと思う。チャンピオンを輩出するばかりでなく、親子関係をより良いものに、というのも地域として求められているのでは。柔道はそれぞれに特技があり、いきなり指導はできない。同じ指導者であっても、細分化されていて資格を取る必要がある。一方、資格がなくてもやってみたくなり、大人だからと指導してしまう人があるが、けがの元でもある。だれでも指導ができるというのはそれはそれで問題がある。地域移行を考える際はそうしたことも考えていかないとと思う。</p>
委員	<p>体罰などの問題もあるので、指導者は資格を持ってやるのが望ましいと思う。いま委員が言われたように、大人だから誰でも指導ができるというのは危ういと思う。</p>
委員	<p>小中学生がいきなりプロになり得ないので、「この程度のものをやるんだよ」とレベルを決めてしまってもよいのではと思う。スポーツに携わることの楽しさや、友達と一緒にやる面白さを伝えていければ、その後成長してもそうしたグループを作っていくのではないかと思う。</p> <p>指導者のレベルは確かに重要な課題だとは思いますが、小学生でやるのはここまでと決まっていれば、無理をさせたり過度に指導をしたりはせずに済むと思う。</p>

委員	現在指導者資格は、一定のレベルまで到達するようにするためのティーチングではなく、子どもたちがやりたいことを支えるコーチングというスタイルに変わってきている。子供たちが中心であり、無理強いはいらない。高レベルを目指す場合でなくとも、きちんと安全管理をし応援をしましょうという形。指導者資格も、その考えにそれに即した形になっている。
委員	優勝を目指すあり方だけが正しいのかと思うことがある。
委員	必ず勝つんだという考え方は、場合によっては体罰などの問題につながることもある。成績にかかわらずそのスポーツをすることを楽しむというのも良いと思う。
議長	土曜カップ塾では資格が必要ですか？
課長	土曜カップの指導者になるのに厳密に資格は必要ないが、地域活動推進員いわゆるコーディネーターさんを任命している。コーディネーターさん自身が指導者になるというよりは、講師を見つけてきてもらったり、企画を練ってもらって、学校と地域を繋いでもらっている。
職員	各学校でやっていることが全く違う。各々学校が目指す子ども像を実現するため、コーディネーターがプログラムを作りながらやっている。スポーツ、座学、料理や工作など内容は学校によって多岐にわたる。小学生に向けてやっていることを、中学生向けにもできないかという話も過去にあった。ダンスについて中学生に上がっても続けられたら良いという考えからだったが、土日には部活をやっているため募集しても人が集まらないということで、ここ数年は募集自体行っていない。
課長	今はせっかく部活動の地域移行がはじまったのだから、どこか一校で（中学生向けの）活動を始めればよいと思う。公共交通などを使って他校の子も一か所に集め、地域移行の土日ダンス部に移行できれば理想的。吹奏楽等だと楽器の移送や、指導者もあしがない場合があるなど、課題はある。
議長	勝った負けたが苦手な子もいる。文化部なら試合とはまた違う学びがあると思う。
委員	中学校に上がるとき、子供がやりたい・学びたいものに対して、部活動に限られてるということを強く感じる。スポーツ・文化どちらでも、何かを学びたいとき、どこに相談すれば的確な場所を教えてもらえるのか。「奥野だったらダンスが習える」といった情報が共有されないのは勿体ないのかなと思う。自分の子供は運動部もやっているが、もちろん文化的なこともさせてあげたいとは思っている。一つのことを極めるといふスタンスからは遠ざかるが、最初から一つに絞ってしまうのではなく、好きなことを好きな時にできることが理想。いろいろなことを学校・地域関係なく子供に体験させてあげたい。
委員	今土曜カップ塾は各校でやっているとのことだが、複数校が連携してやるということではできないのか。参加校をバスが回って実施場所に送り届けるような…
委員	学区外から参加を希望した子が二年前はいたが、その時点では生涯学習課に判断を仰いだうえでお断りする結果になった。時代がまだ追いついてなかったのかも。
委員	自身が参加した土曜カップ塾は人数が少ないように見受けられた。バスなどで乗りあって、ほかの学校と合同でやることを検討しては。
委員	ただ、内容が人気でくじ引きをしているような学校や、継続的に高めていくタイプのところは、飛び入りは敬遠するかもしれない。だが、学校によってできないものがあり、残念な思いをする人は度々いる。
課長	普段は文化部だが土日はスポーツ、あるいはその逆といったように、柔軟に構成できるところが地域部活動移行の良い効果だと思う。絵に描いたようにはできないかもしれないが、お子さんたちが自身のやりたいことを自由に選べるように出来たら理想的。
委員	親と一緒にやるものについても需要があるというのを、イベントに出たりして肌で感じている。平日は親が定時まで仕事をする中、送り迎えもままならない。平日（普段）は子供となかなか触れ合えないので、土日自分も一緒に参加するというのが今のニーズなのだと思う。
委員	牛久は、柔道人口が子供も大人も増えている。親が子供に「やってこい」というような昔のスタイルではなく、一緒に体験しどこからでも入ってこれるような手立てを考えた方がよい感じがする。
委員	学校との関係も希薄になってきている。子供からクラスメイトを友達ととらえていない発言を聞いてショックを受けたりした。また子供が修学旅行に行かなかつたりもし、学年という大枠で3、4日一緒にいるのなら、好きな人達と一緒に旅行に行きたいという理由だった。新しい時代だと感じる。また子供のことを以前だったら先生に相談しようと思ったりもしたが、先生の負担に対する遠慮やそこまで子供を見ているだろうかといった気持ちから、実際は相談しなかつたりする。だからこそ、学校ではないところにその役割が流れて行ったりするのではないかと思う。

委員	親子で一緒になってやっていると保護者も一生懸命やるようになる。保護者もそこで色々な経験をして黒帯になっていく。子供がそうした保護者が熱心にやっていることに影響を受けるというのも、良い教育になっているのではないかと思う。帯の色を細分化して、小さな上達も見える化してあげることが、保護者・当人含めたやる気につながっていると思う。
委員	段取りとしては、まず土台になるものを作成したらよいと思う。先ほど話に出たような交通手段の確立、体験できるものの種類の洗い出しなどをすることで、選択肢が広がると思う。方向性を定めてそこからスタート。
議長	会議での意見を企画書にまとめてみたいと思っている。公務を行う目的は市民サービス。自身の置かれている体制を整えなければサービスを提供してあげられない。多様性を認めるということは、受け皿に限りがある中どうやっていくのか、考えることでもある。牛久市として何ができるか提案していきたい。
委員	先ほどこスポーツについて、最近親子の参加が増えていてという話があったが、文化系だと、以前茶道体験があった。通常和室で茶道は正座をして行うものだが、会議室で椅子に座るスタイルで、5歳の子から大人まで午前15組・午後15組の参加があった。子供の参加を可としたことで親子の参加も多く、親子で参加することの大事さを感じた。また同時に、日本の伝統文化を伝えていくことの大切さも感じた。
委員	部活動地域移行の話に関連して、自分も地域移行で手を挙げている一人だが、地域部活動に際しスポーツ安全保険に加入するよう促されている。平日の部活動でも保険に入り、地域部活動でも保険に入るということになるが、保険を取りまとめ地域部活動一括で安全保険に入ることはできないだろうかと思う。個別だと保護者の負担だと思うので、同じ中学生の部活ということで一くりにできたら良いのでは。
課長	改善の余地があるかもしれないので、関係各課含め共有します。
委員	子どもは親の背中を見て育つという言葉もあるが、親子で一緒にやれるような活動の場を作っていくのが良いと思う。どんな風に育ってもらいたいかの将来ビジョンをはっきり持つことも大事だと思う。ビジョンに沿って、今何をしたらよいのかを考えていくのが現時点でできることかと思う。そうすれば自ずとツリー的なものができると思うので、頂点に向かうにはどうしたらよいのか課題を一つ一つ考えていきたい。
委員	この場がただの雑談にと留まらず、行政に届くものとなれば有意義だと思う。そうした会議でありたいと思う。
委員	この会議が色々な情報を取得し代謝して自分の活動に生かせるのがよい。様々な分野の人が市の活動を支えているのを感じる。芸術・スポーツが引き継がれているということを感じた。
委員	体験は力なり。認知能力と非認知能力といったことを思い出した。非認知能力は体験の数がものをいうと思う。多くの体験があればその子の財産になると思う。また、将来自身が進む方向性が見えてくるという効果もあると思う。部活の地域移行に際し、そうした体験が増えることは本当に良いことだと思う。不都合な部分も含めた体験を経ることがとても大事だと思う。
委員	子どもたちの健全育成について、自分の知らない部分がたくさんあるのだな、と感じた。ここでのことを持ち帰って自分の中で昇華し、別な場面でも生かすことができれば良いなと思っている。
委員	会議に全員が参加した形が刺激になりよかったと思う。何か会議を通し実現することができるのではないかと感じている。
委員	昭和20年代、自身の小学生時代を思うと、手作りするしかなかった。竹バットと布ボールで野球したり。自分で遊びを作っていけないと何もできなかった。ある意味では非常に面白い時代だったと思う。地域部活動は非常に大切なものだと思う一方、上から与える活動が良いことなのかと思うこともある。
議長	幸せになるために人は生きている。仕事はこなすことも大事だが、何のためにするのが大事と考える。民意は行政を動かす力がある。社会教育委員会が可能性の発信地たる会議となることを期待している。